

綿貫観音山古墳(高崎市)

これは南西側から見た綿貫観音山古墳/6世紀後半の築造で2段築成の前方後円墳(左手が前方部、右手は後円部)/後円部の中段面に横穴式石室が開口しているのが見てとれる/前方部と後円部の高さがほぼ同じ(前方部の幅と後円部の径もほぼ同じ)



南南西側から見たところ/史跡の銘板が据えられている



その近くに各種説明板があった



綿貫観音山古墳は4基の比較的大型の前方後円墳を主墳として綿貫古墳群の中で最後に築造された1基



すべて盛土で築かれており、中段部と墳頂部には埴輪の配列があったが葺石は全く認められないという

史跡 観音山古墳

史跡指定 昭和四八年四月十四日
所在地 高崎市綿貫町字観音山

群馬県の古墳時代後期の代表的前方後円墳である。

墳丘は、前方部を北々西に向け、全長九七メートル、前頭部幅六四メートル、高さ九メートル、後円部直径八一メートル、高さ九・五メートルの規模で、すべて盛土で築かれている。中段部と墳頂部には埴輪の配列がある。周堀は二重にめぐり、内堀と外堀は中堤で区分される。全長一七八メートル、幅一四三メートルにわたる。

石室は、後円部に築かれた巨大な横穴式石室で南西に開口する。壁面は榛名山ニッ岳噴出の角閃石安山岩の切石を積み上げ、天井石は吉井町産出の牛臥砂岩が用いられている。なお、出土品は県立歴史博物館に展示されている。

昭和五六年三月

群馬県教育委員会

史跡観音山古墳石室修理実測図



全長	12.65m
室長	8.12m
室幅	3.95m
壁高	2.68m
羨道長	4.53m
羨道奥幅	2.40m
羨道奥高	1.39m
入口幅	1.34m
入口高	1.18m

古墳公園として素晴らしい状態に整備保存されている



史跡 観音山古墳

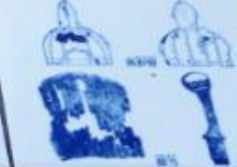
概要
 観音山古墳は二重からなる墳丘とそれを取り囲む二重の石室をもつ円形周回溝に築かれた前方後円墳です。
 墳丘は、東方部を北へ西に向け、全長約100m、東西幅約80m、幅員約60m、東方深約50m、側面高さ1.5mで、すべて土で築かれています。墓石はありません。中腹部と後円部には埴輪が並べられていました。周溝を囲めた全長は170m、幅140mで、内堀と外堀は半周溝で区別されています。

SUMMARY
 Approximate length North-South (circle) 100 meters, West-East (circle) 80 meters. It is a circular keyhole-shaped mound with a double stone chamber, surrounded by a double circular ditch. The mound is built of earth and has a total length of about 170 meters and a width of about 140 meters. The inner and outer ditches are distinguished by semi-circular ditches. There are no grave markers.埴輪 (haniwa) are arranged in the middle and rear circular parts of the mound. The total length of the ditch is 170 meters and the width is 140 meters. The inner and outer ditches are distinguished by semi-circular ditches.

観音山古墳と出土遺物



埴輪の集積



出土品



1. 墳丘全体図
2. 墳丘断面図
3. 石室全体図
4. 石室断面図
5. 石室内部図
6. 石室出土品
7. 石室埋設位置



華麗な金属工芸品

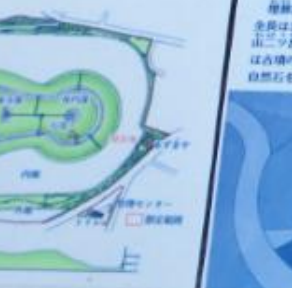


石室の中には、死者が生前に使っていたものなどたくさんのお宝が埋められていました。遺体は長い間に残ってしまい、ごく少量の骨片と歯が見つかっただけでしたが、右側の壁の下には、銅や玉、貝飾り、そして刀や槍など、惣りの道具や武器を示す品物が置かれ、左壁の下にはよろい、首をはじめ武器・武器類が置かれていました。

これらの副葬品の中には、奈良県の藤ノ木古墳や朝野半島の武家王陵出土のものと同様のものもあり、最新の文化を積極的に取り入れた埋葬者の姿を浮かびあがらせてくれます。

出土品については近くの奈良国立歴史博物館に展示してあります。

観音山古墳全体図



観音山古墳の埋葬施設



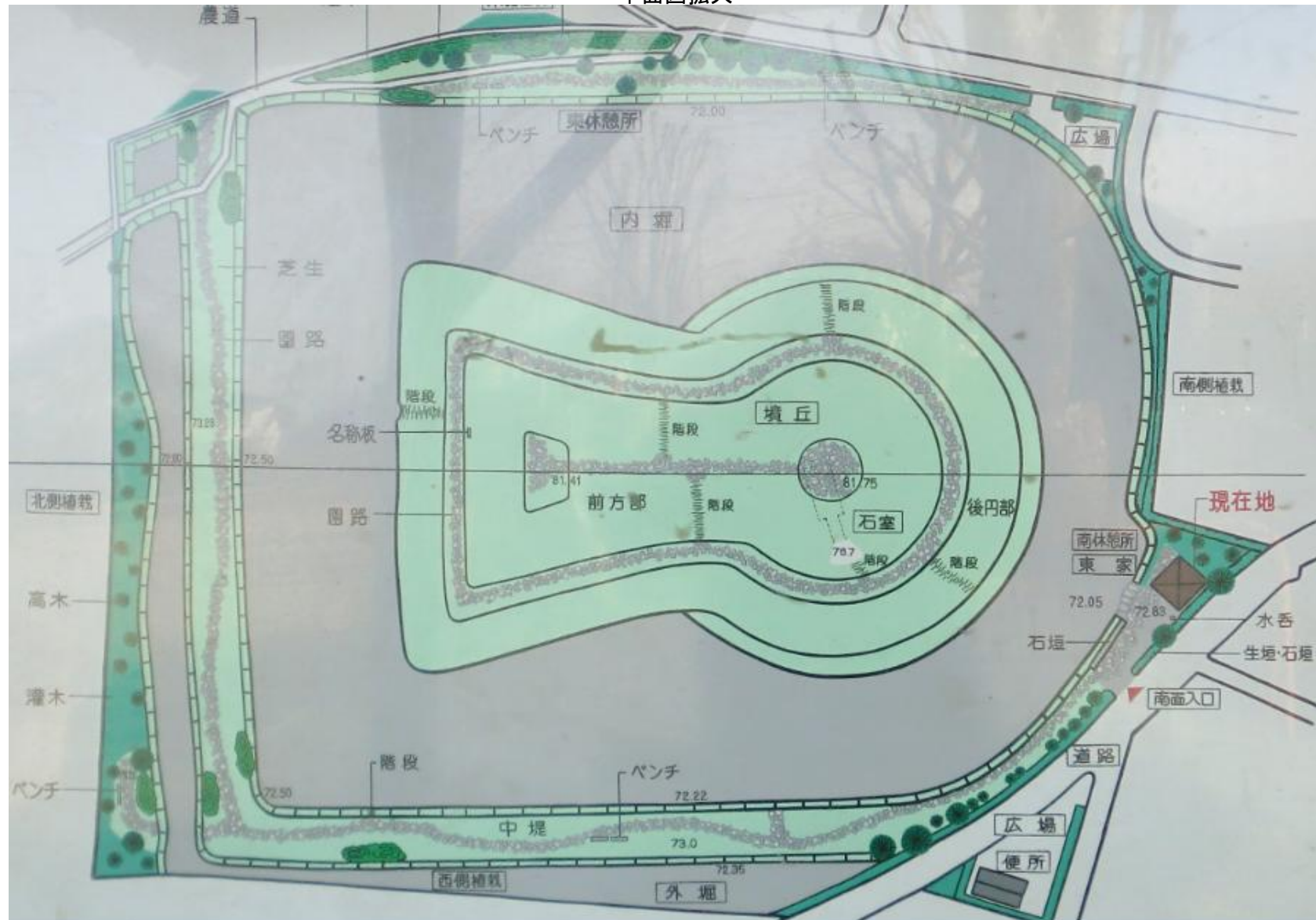
はにわの世界一古墳のまつり

観音山古墳か「入道女」をはじめとして、数多くの埴輪が出土していました。その生前の姿や、古墳のまつりの様子をうかがい知ることが出来ます。



<p>観音山古墳と出土遺物</p>	<p>観音の装束</p>	<p>馬具のいろいろ</p>	<p>観音山古墳をつくる</p> <p>古墳全体の造営法をつくり、それに基づいて現場で築墓を行います。そして、高麗を翻り、その土を盛り上げて墳丘の一段目をつくります。後円部に瓦葺石室山留の印石を積み、その上に鉄製石を用いて遼人の巨大な牛車輪の穴付石を載せた石室をつくります。石室の上に盛り土を重ね、最後に整形して完成となります。</p>	<p>古墳をつくる</p>
<p>鉄製の金環と刀</p>	<p>石室の中には、死者が生前に使用していたものなどたくさんの品々が埋まられていました。遺体は高い所に置かれていて、ごく少量の骨片と土が混じっていただけでしたが、右側の壁の下には、鍔や玉、耳飾り、そして刀や帯など、墓中の遺物や装束を示す品物が置かれ、左壁の下にはよらい、冑をはじめ武具・武器類が置かれていました。</p> <p>これらの副葬品の中には、奈良県の藤ノ木古墳や長野県千曲の武家王塚出土のものと同類するものもあり、群衆の文化を積極的に取り入れた埋葬者の姿を浮かびあがらせてくれます。</p> <p>出土品については近くの群馬県立歴史博物館に展示してあります。</p>	<p>馬具の名前</p>	<p>群馬の古墳時代</p> <p>群馬県にはかつて1万基を超える古墳があったと推定され、全国でも有数の「古墳王国」といわれています。</p> <p>これらの古墳は、4世紀中頃から7世紀の末にかけてのもので、観音山古墳がつけられたら3世紀末頃までは前方後円墳が多く集まりました。</p> <p>それ以後は前方後円墳が消滅し、円墳や方墳が多くなります。やがて、仏教文化が伝来すると古墳にかわって寺院が建立されるようになります。</p>	<p>古墳をつくる</p>
<p>にわの 世界一古墳のまつりー</p> <p>古墳からは北国でも稀に例のない「三つはじめて」として、数多くの遺物が出土。その多くは、かつての古墳から発掘された。古墳のまつりの様子をご覧ください。</p>	<p>石室から出土した土器類 (土師器・滑石甕)</p> <p>土器類と木炭 炭土灰</p>	<p>いろいろな形の古墳</p> <p>古墳王国群馬</p> <p>群馬県下の主要古墳</p>	<p>観音山古墳周辺案内図</p>	

平面図拡大



さて、南側から墳丘を登ってみよう/ここにも説明板が立っている



右から三番目の三人童女埴輪は国内ではきわめて稀例に属するもので、韓国で出土しているのでその関連性が指摘されているらしい

観音山古墳の埴輪



古墳の多い群馬県には、すぐれた埴輪がたくさん知られています。なかでも、この観音山古墳からは、造形的にもりっぱなものが多く発見されていることで有名です。

墳丘の頂上部には、後円部に円筒列で囲んだ中に家・盾・にわとり・大刀、前方部にも家や盾など、ここに葬られた豪族の安住の館を表現したともいわれる埴輪が置かれていました。

中段の平坦面には、石室の入口付近に、祭りをを行う一組の盛装した男女とその従者と考えられる三人童女、弓を負う武人、食物を捧げる人からなる祭人グループ、それに続いて、盛装の男子、申宵を着けた武人、鎌を負う農夫などの葬送儀式に加わる人々とそれを警護する盾持ち人が続き、前方部には地位や財力を表す飾馬と馬引きなど、古墳時代の人々の生活や風俗・習慣をうかがわせる埴輪が並べられていました。

これらの埴輪は、石室から発見された副葬品などとともに、群馬の森の県立歴史博物館で展示されています。



この上が2段築成の中断面



正面に「後円部」と記された標識石が据えられている



左手に進むと横穴式石室の入り口がある



これが後円部にある横穴式石室



壁面は榛名山ニツ岳噴出の角閃石安山岩を削り加工した切石を積み上げ(角閃石安山岩削石積石室と呼ばれる)、天井石は吉井町産出の牛臥砂岩が用いられている/これらの巨石は石を切り出した後、舟を使い、そりで引き上げたと考えられている

観音山古墳の石室

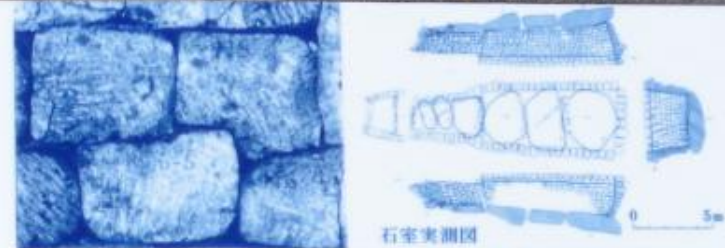
大きさ	玄室長	8.25 m	玄室幅	3.85 m
全長12.5 m	羨道長	4.25 m	羨道幅	2.48 m

壁面は、かくせん せきあん ざんがん角閃石安山岩の5面を加工した約30~40cmの切石を積み上げています。一部にL字形の切り込みがあり、精密な技術がうかがえます。

天井石は、牛伏砂岩の自然石を用い、その最大のもの重さが約22トンもあります。

◎見学上の注意

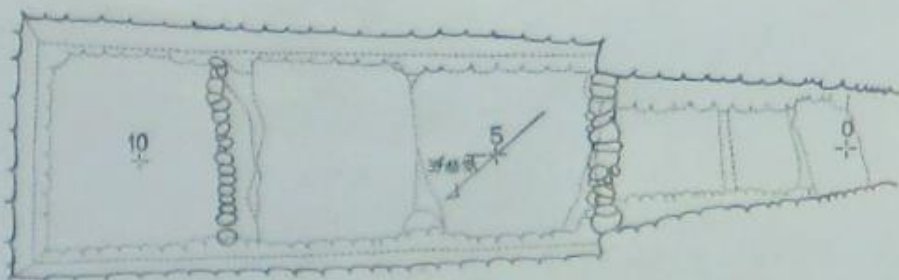
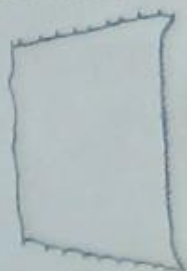
1. 石室内の石は外に持ち出さないでください。
2. 壁に手を触れたり、寄りかからないでください。
3. 係員の指示のある場合には、その指示に従ってください。



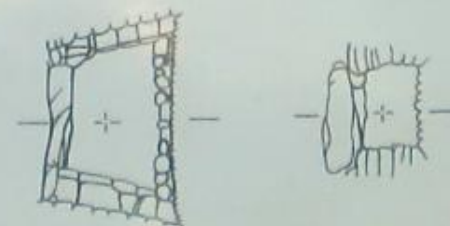
石室の規模は群馬県最大/この古墳の石室は、崩れていたため墓盗人が掘り出すことができず、未盗掘の状態だったという/玄室から出土した獣帯鏡は韓国の公州で発見された百済・武寧王陵の石室内から出土した獣帯鏡と同範鏡であり、同じく出土した銅製水瓶とともに東アジアとの交流を示すものとされている/尚、出土した三累環頭太刀は朝鮮半島の新羅の支配者層が保持していた太刀で朝鮮半島との繋がりを物語っているという

史跡観音山古墳石室修理実測図

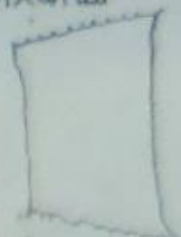
10^m位置横断面



玄門図(玄室~羨道) 入口正面図



5^m位置横断面



凡例-補修・新石



さて、石室の中を覗いてみよう



手前が羨道、奥が玄室/両袖型石室となっている/壁面は角閃石安山岩の切石を積み上げ、玄室壁面は互目積みとなっている



正面は奥壁/天井石は牛臥砂岩の巨大な自然石



さて、前方部方向へ墳丘を回ってみよう/墳頂への階段があるところは「くびれ部」



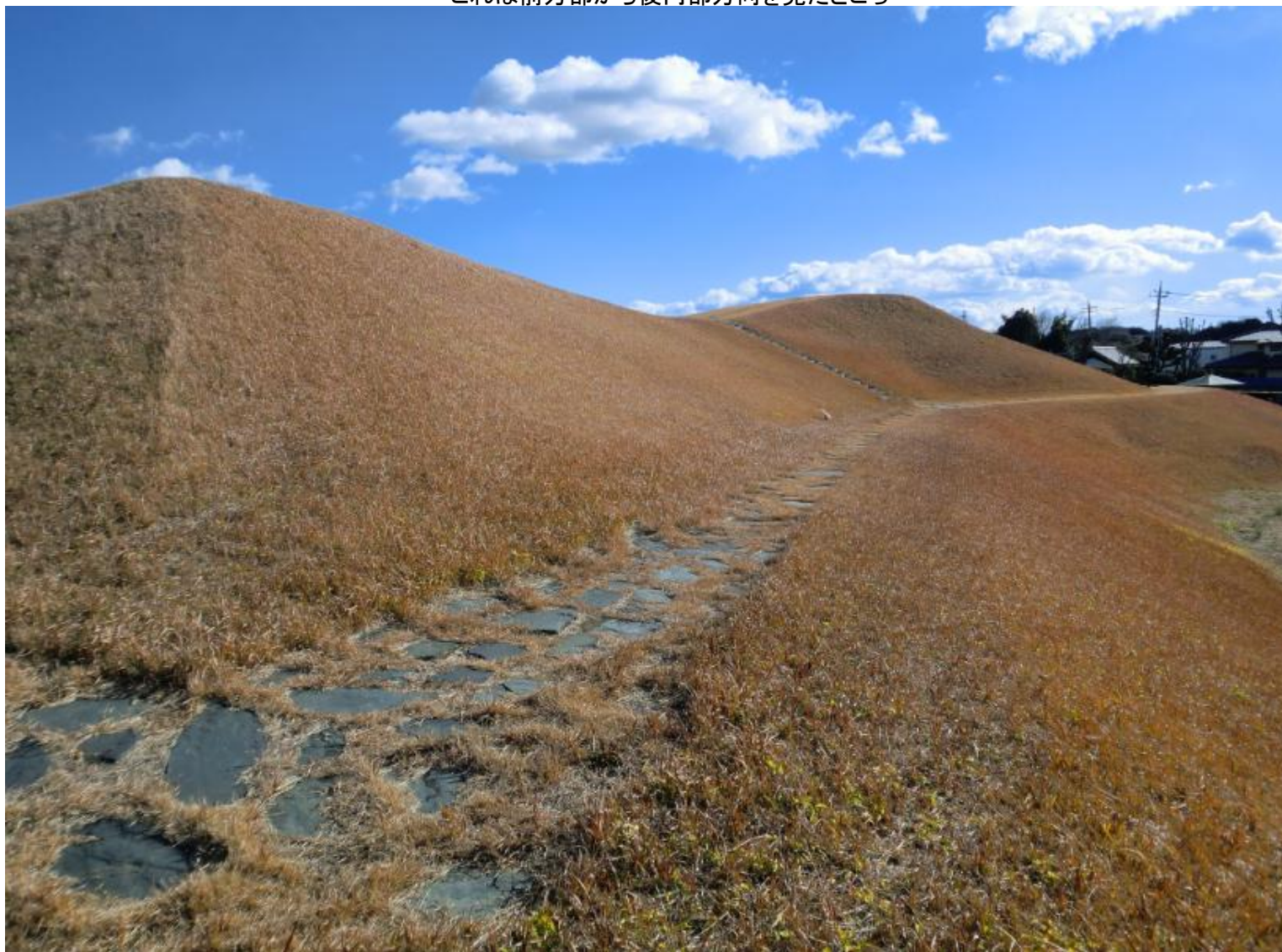
「鞍部」(くびれ部のこと)と記された標識石が据えられている



「くびれ部」から前方部沿いに北方向を見たところ/左手は周堀



これは前方部から後円部方向を見たところ



これは右手の周堀を見下ろしたところ



これは北方向から前方部を見上げたところ/「前方部」と記された標識石が据えられている



これは前方部を東側から西方向へ見たところ/右手は周堀



これは前方部から後円部方向を見たところ



これは左手の周堀を見下ろしたところ



これは後円部から前方部方向を見たところ



これは右手の周堀を見下ろしたところ



左手を見上げると「後円部」と記された標識石が据えられている



さて、これは後円部墳頂から前方部方向を見たところ/遙か遠方やや左手には石室の壁面に使用されている角閃石安山岩を産出した榛名山ニツ岳が見える



これは前方部墳頂から後円部方向を見たところ/確か前方部と後円部の高さはほぼ同じである



右手の周堀を見下ろしたところ



左手の周堀を見下ろしたところ



これは前方部墳頂で榛名山ニツ岳(正面)方向を眺めたところ



これは前方部墳頂で赤城山(正面やや右手)方向を眺めたところ



さて、これは南東側から墳丘全体を見たところ



これは北東側から墳丘全体を見たところ



これは南側から見た前方部墳丘と周堀そして中堤/中堤の更に右手にはもう一つ周堀(外堀)が巡っていた



これは北側の中堤から周堀越しに前方部を見たところ



これは北西側の中堤から周堀越しに墳丘全体を見たところ



これは周堀から西側の中堤を見たところ/手前の標識石には「内堀」、向こうの標識石には「中堤」と記されている



これはその中堤を南側から北方向へ見たところ/右手が内堀で左手が外堀という二重の周堀となっている



振り返って南方向を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_kannon2/

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B6%BF%E8%B2%AB%E8%A6%B3%E9%9F%B3%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<http://www.pref.gunma.jp/03/x4510004.html>

<http://www.manabi.pref.gunma.jp/bunkazai/m102214.htm>

<http://www13.atpages.jp/ootama/page192.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/takasaki/kannon.htm>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yoshi-cp/watanuki.htm>

<http://blog.goo.ne.jp/yymtyz/e/3c9691efe78bdd1e879729738f13e477>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kofun-sub/kf-kannyama.html>

<http://palo.dip.jp/tabu/kannon/kohun01.html>

http://inoues.net/club3/gunma_kannon.html

